

練馬区高齢者基礎調査 報告書

(抜粋)

※報告書中、項目 8 「高齢期の住まい」（報告書冊子 p55～p64）および
項目 10 「高齢者の見守り」（同 p70～p74）部分について抜粋した。

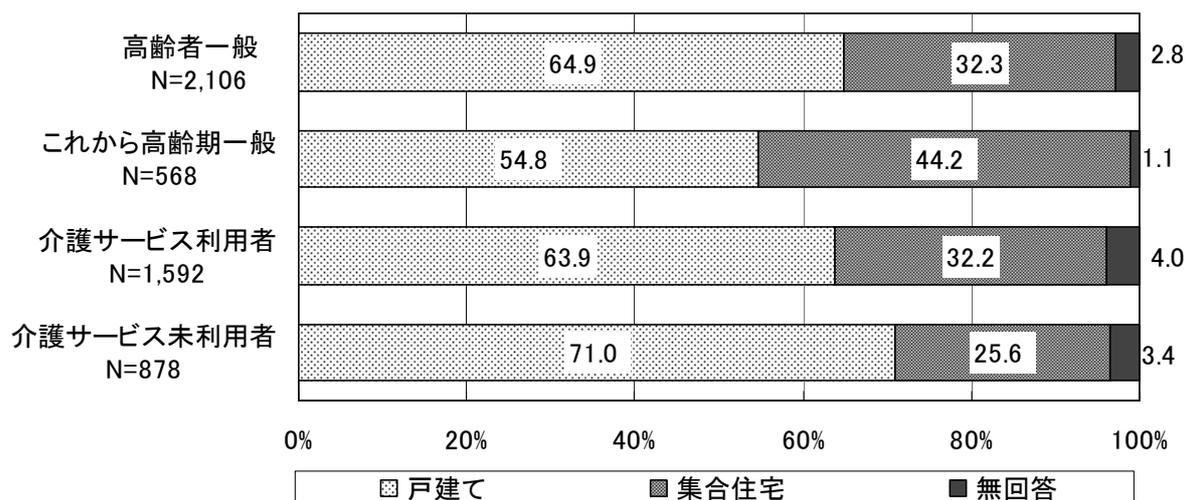
平成 23 年（2011 年） 3 月

練馬区

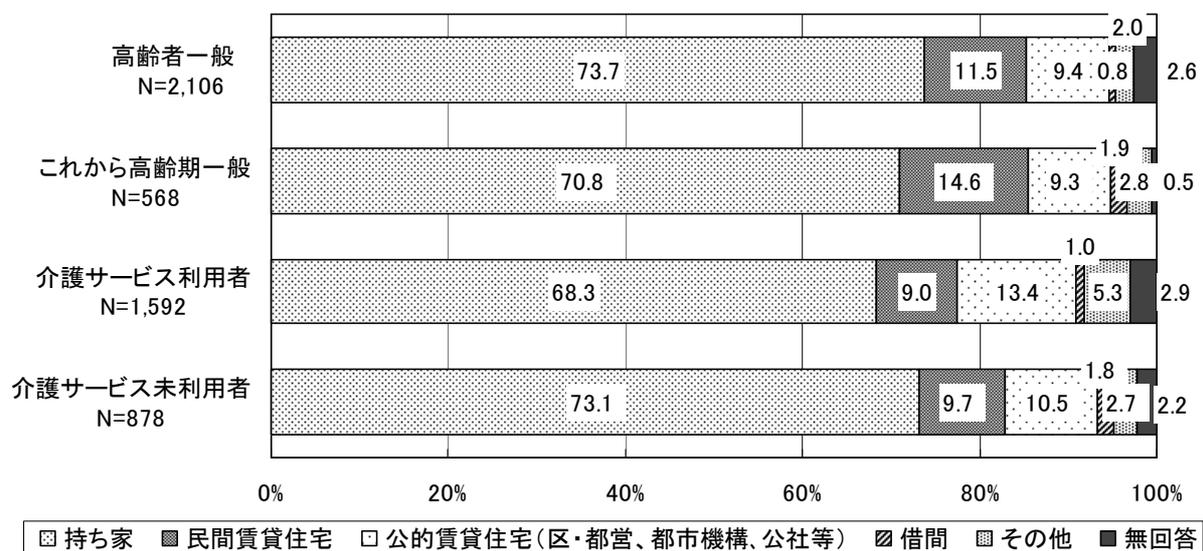
8. 高齢期の住まい

(1) 住居形態

ア. 住居形態については、いずれの調査においても「戸建て」の割合が最も高い。
 イ. 住まいの所有関係については、それぞれ「持ち家」の割合が最も高くなっている。

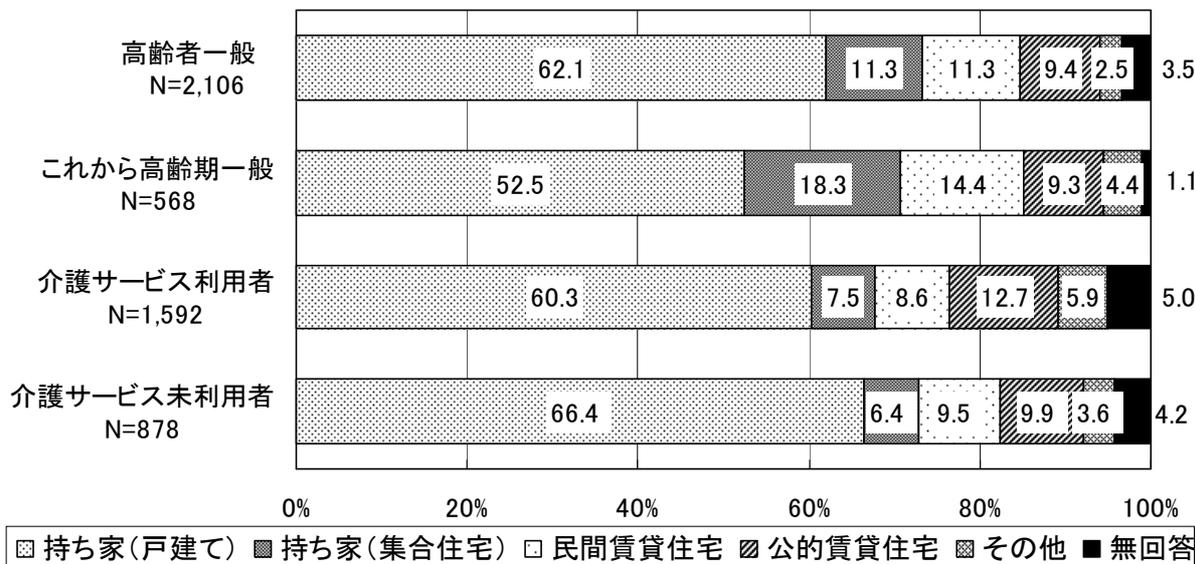


図表1 住居形態 (単数回答)

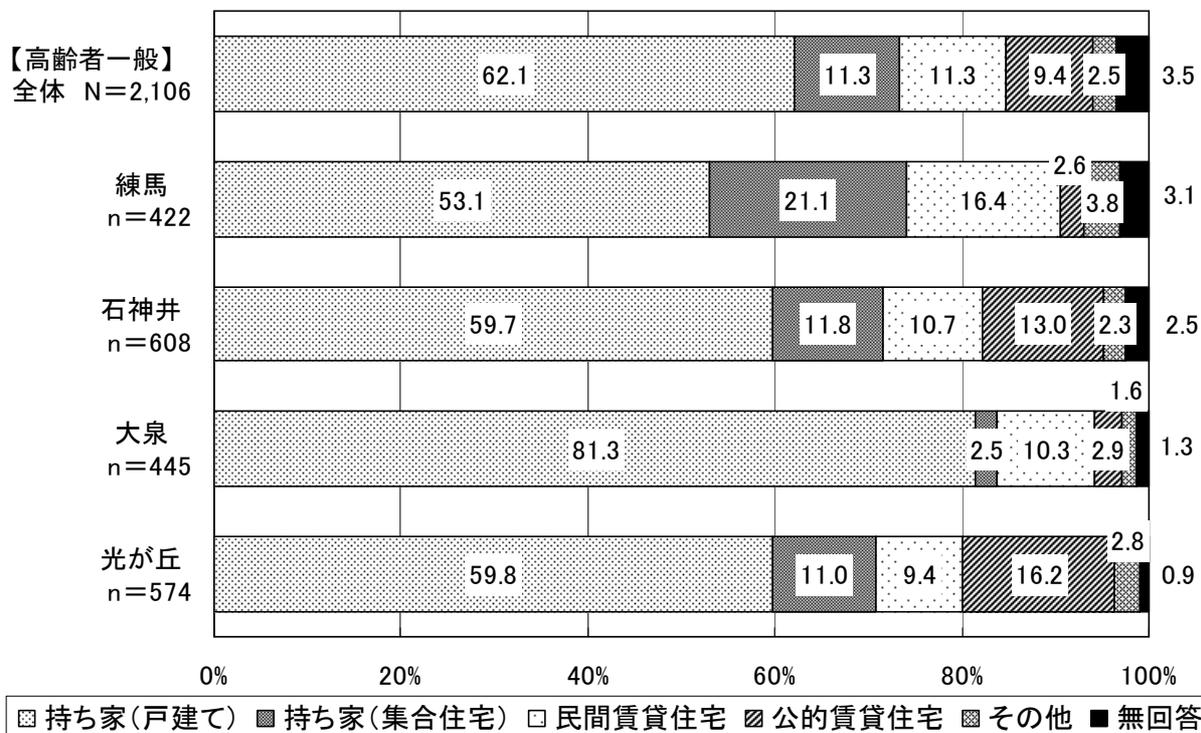


図表2 住まいの所有関係 (単数回答)

- ウ. 住まいの所有関係別に住居形態をみると、いずれの調査も「持ち家（戸建て）」の割合が最も高くなっている。
- エ. これから高齢期一般は、他の調査に比べ「持ち家（集合住宅）」の割合が高くなっている。
- オ. 高齢者一般について、日常生活圏域別にみると、「持ち家（戸建て）」の割合は、大泉で高く、練馬で低くなっている。



図表3 住居形態×住まいの所有関係 (単数回答)

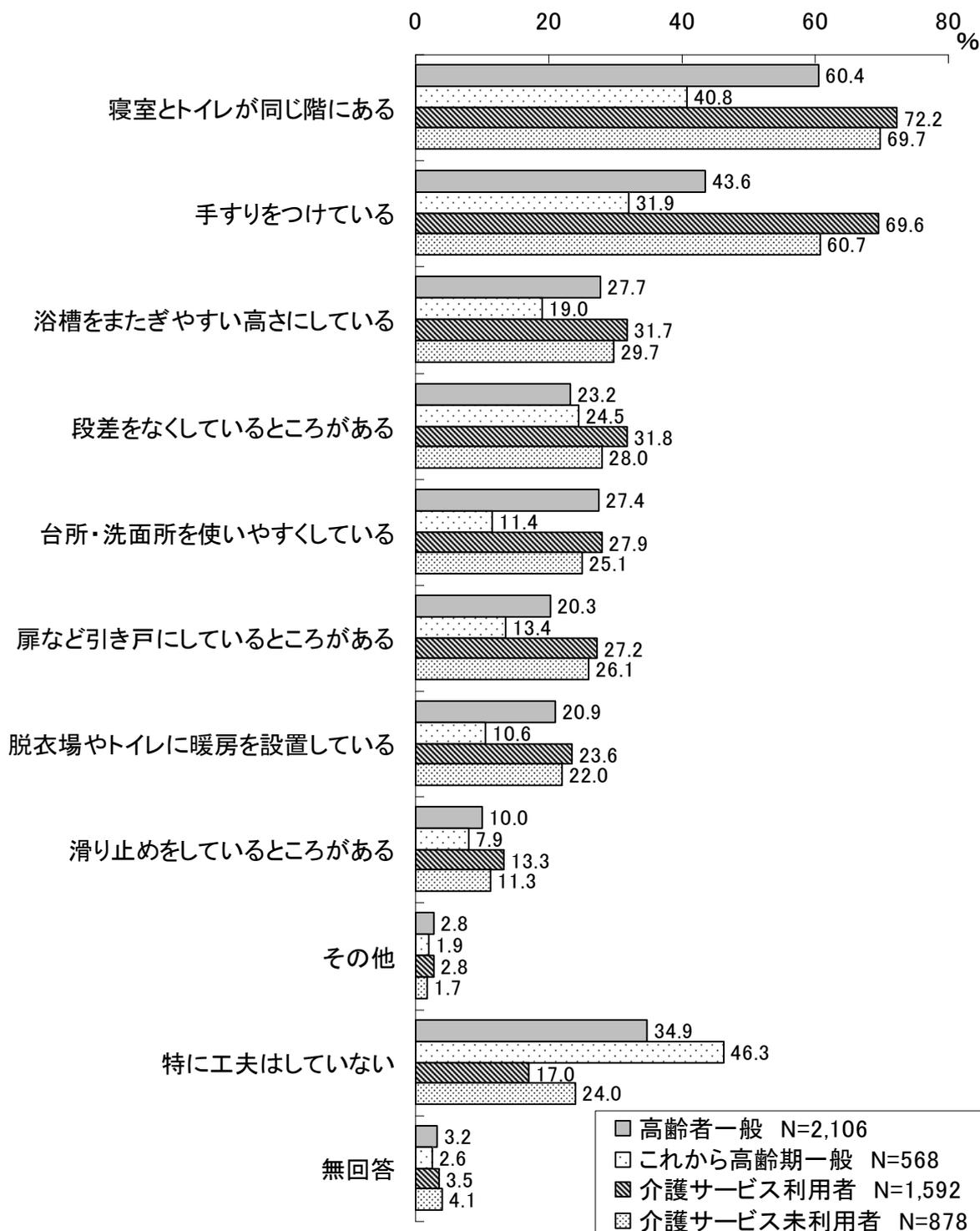


図表4 日常生活圏域×住居形態×住まいの所有関係／高齢者一般 (単数回答)

(2) 高齢期を過ごすための住まいの工夫

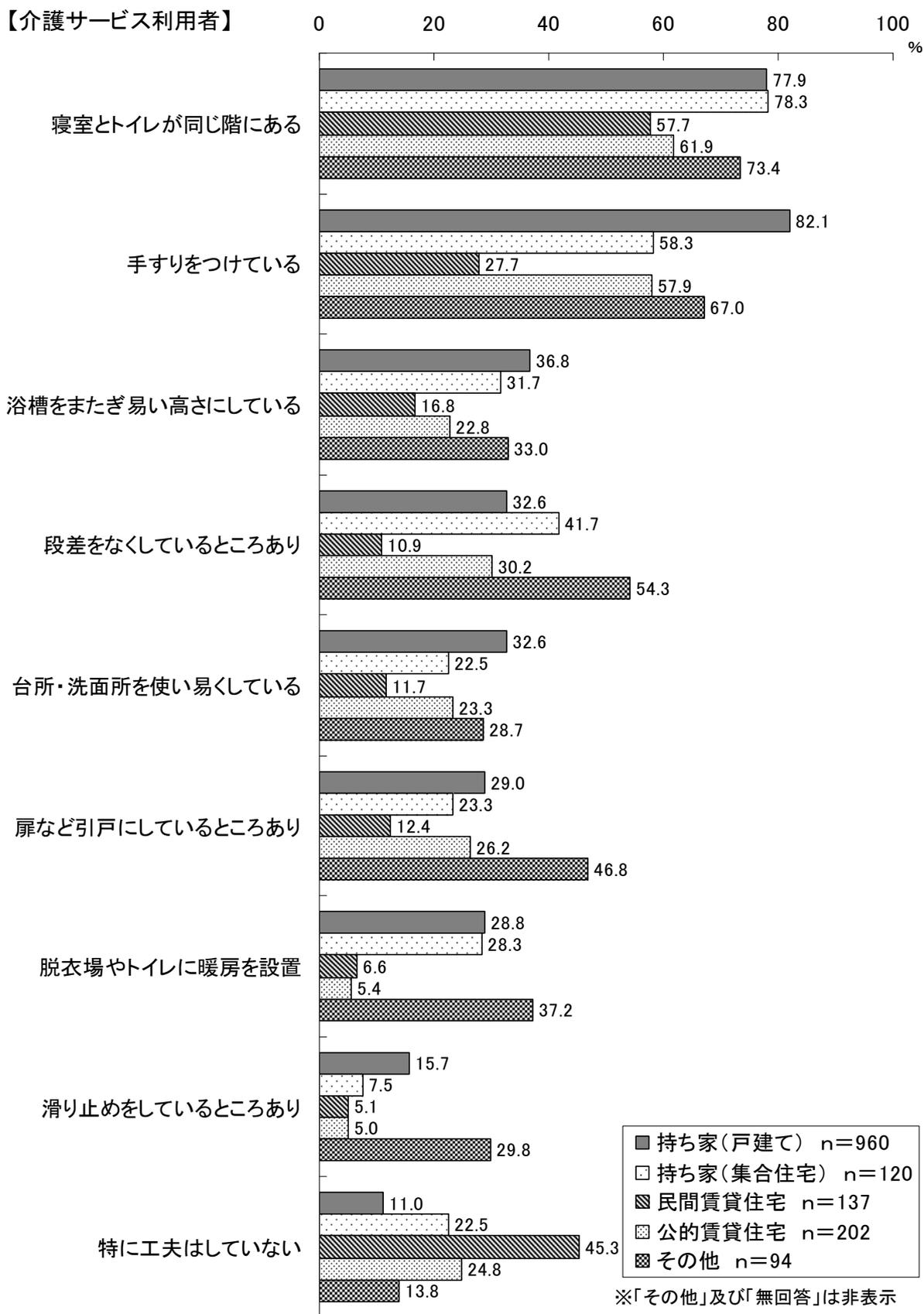
ア. 高齢期を過ごすための住まいの工夫として、「寝室とトイレが同じ階にある」「手すりをつけている」の割合が高く、特に、介護サービス利用者、介護サービス未利用者では6～7割となっている。

イ. これから高齢期一般では、「特に工夫はしていない」が5割弱となっている。



図表5 高齢期を過ごすための住まいの工夫 (複数回答)

ウ. 介護サービス利用者について、住居形態別に高齢期を過ごすための住まいの工夫をみると、民間賃貸住宅の5割弱で「特に工夫はしていない」と回答している。

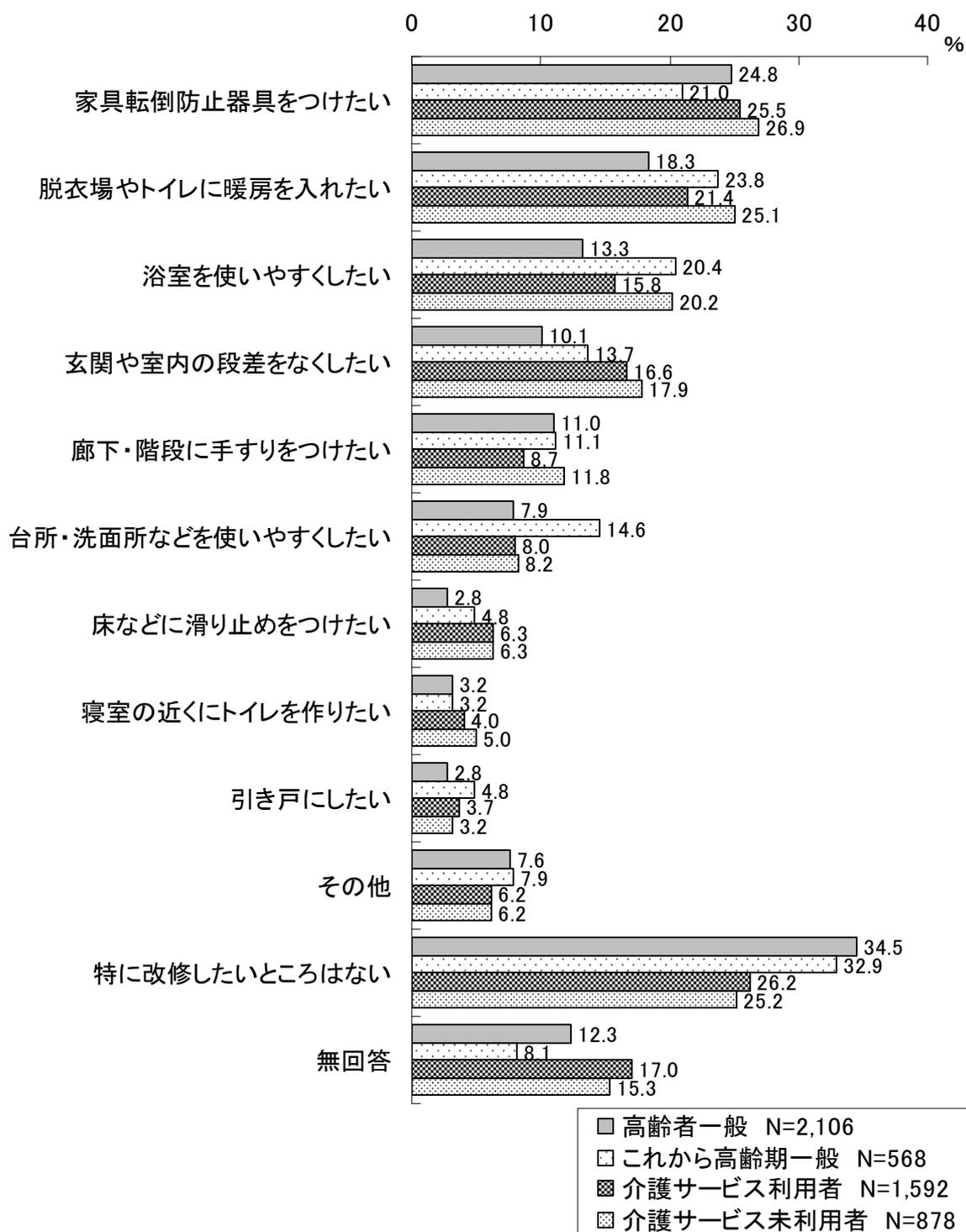


図表 6 住居形態×高齢期を過ごすための住まいの工夫／介護サービス利用者 (複数回答)

(3) 住まいの改修意向

ア. いずれの調査においても「家具転倒防止器具をつけたい」「脱衣場やトイレに暖房を入れたい」の割合が高く、特に、介護サービス未利用者の割合が高くなっている。

イ. 一方、高齢者一般およびこれから高齢期一般では、「特に改修したいところはない」が高い。

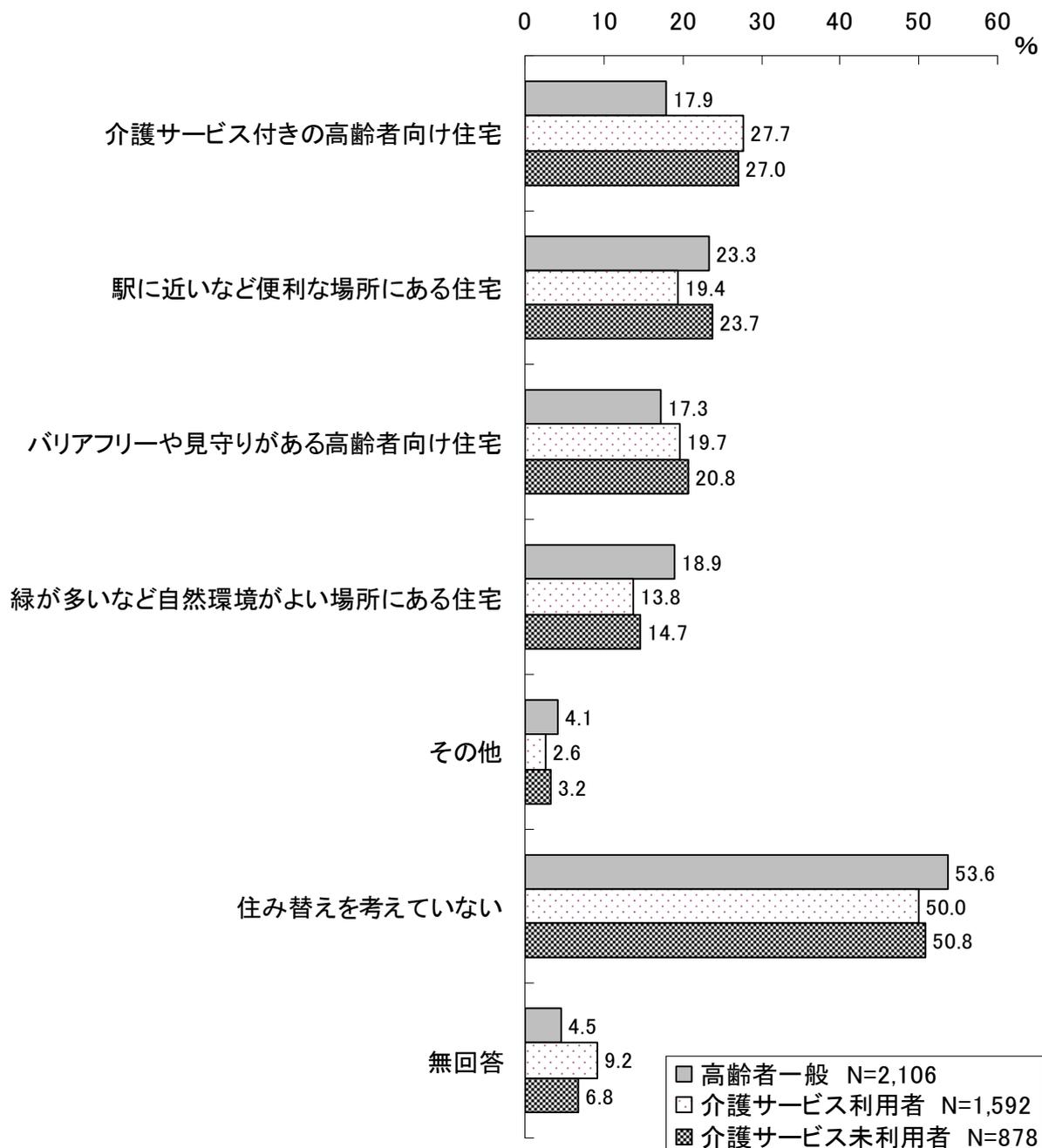


図表7 住まいの改修意向 (複数回答)

(4) 住み替える場合に重視する点

ア. 住み替えをする場合に重視する点をみると、「住み替えを考えていない」が半数を占めている。

イ. 介護サービス利用者、介護サービス未利用者は、「介護サービス付きの高齢者向け住宅」の割合が高く、高齢者一般では「駅に近いなど便利な場所にある住宅」の割合が高くなっている。

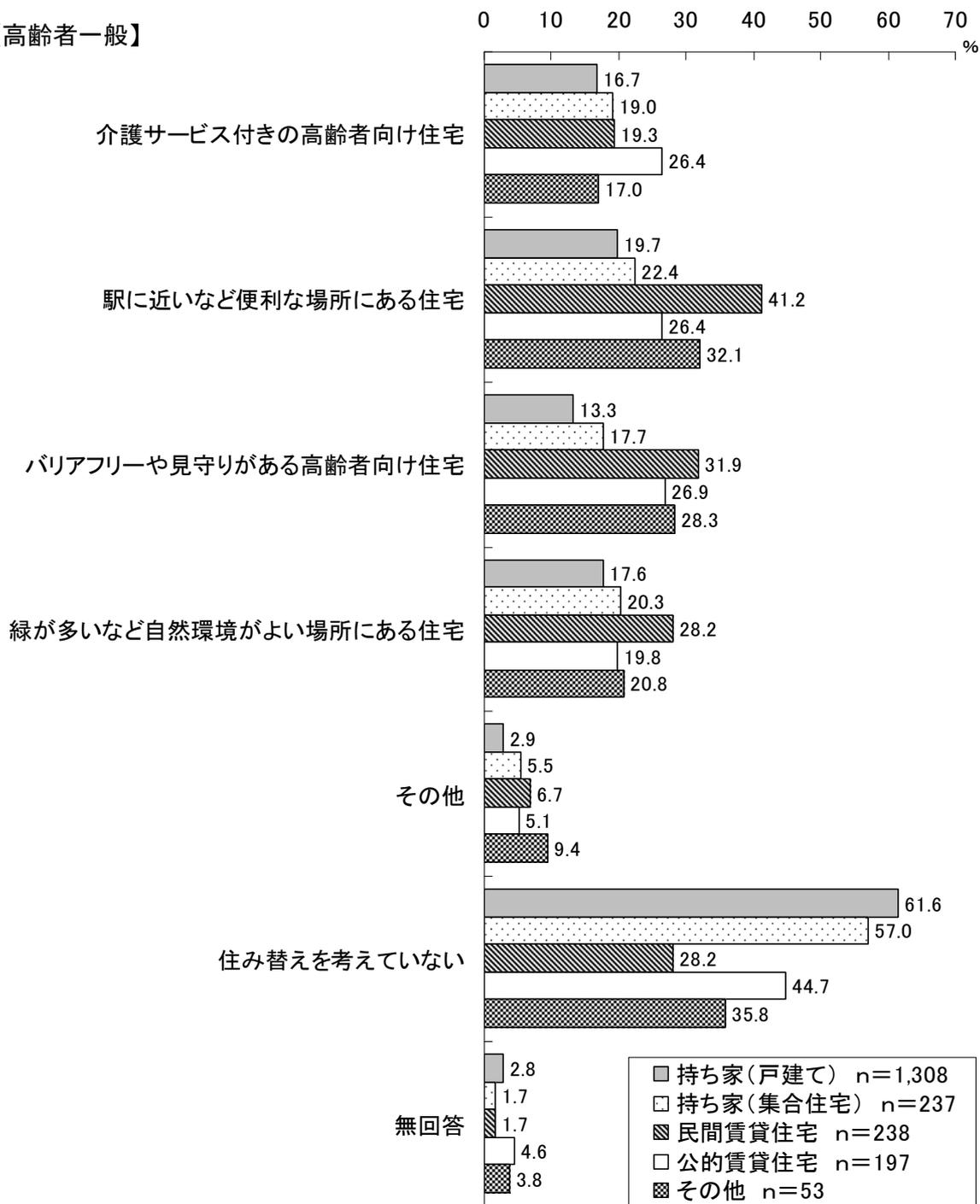


図表8 住み替え重視点 (複数回答)

ウ. 高齢者一般について、住まいの形態別に住み替え意向をみると、持ち家で「住み替えを考えていない」割合が高く、『持ち家（戸建て）』で6割強、『持ち家（集合住宅）』で6割弱となっている。一方、『民間賃貸住宅』では3割弱と低い割合となっている。

エ. 『民間賃貸住宅』居住者の住み替え希望は、「駅に近いなど便利な場所にある住宅（41.2%）」が最も高い。次いで「バリアフリーや見守りサービスがある高齢者向け住宅（31.9%）」となっている。

【高齢者一般】

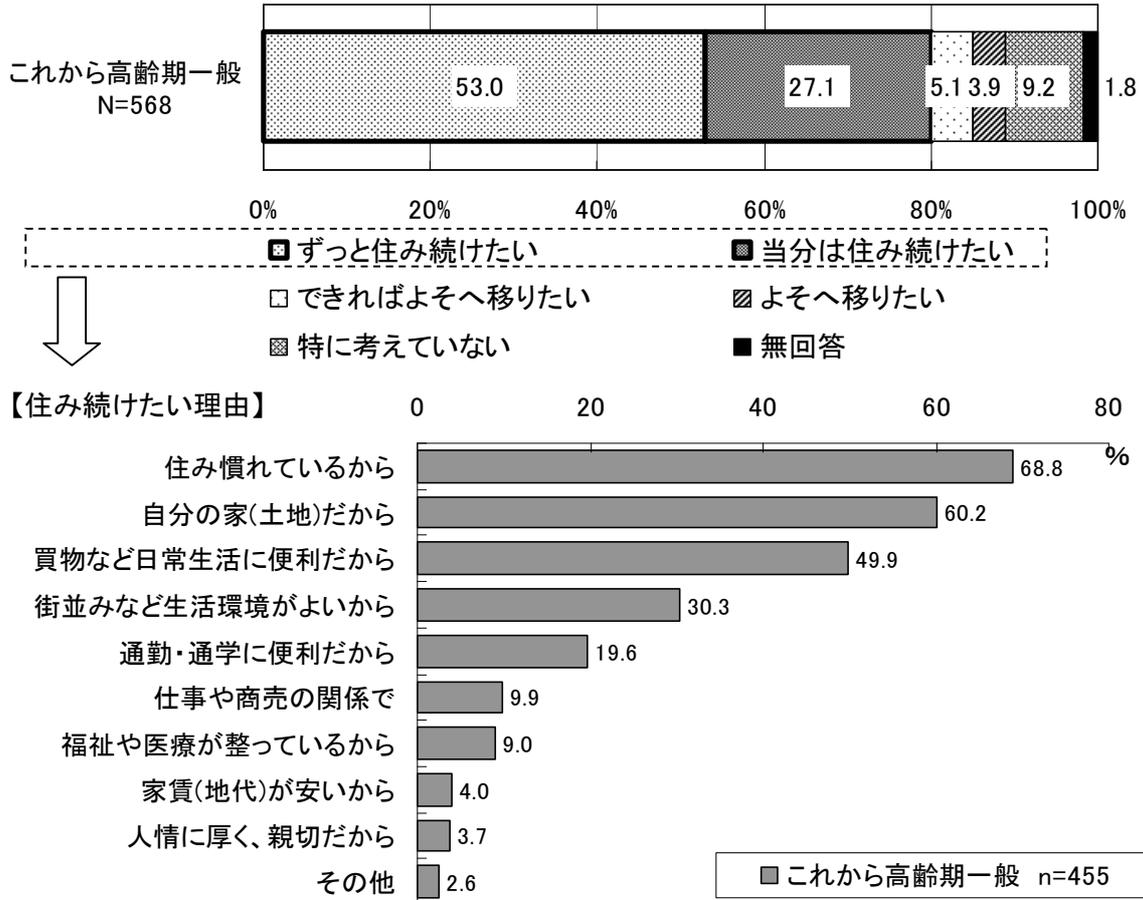


図表9 住居形態×住まいの所有関係×住み替え重視点（複数回答）

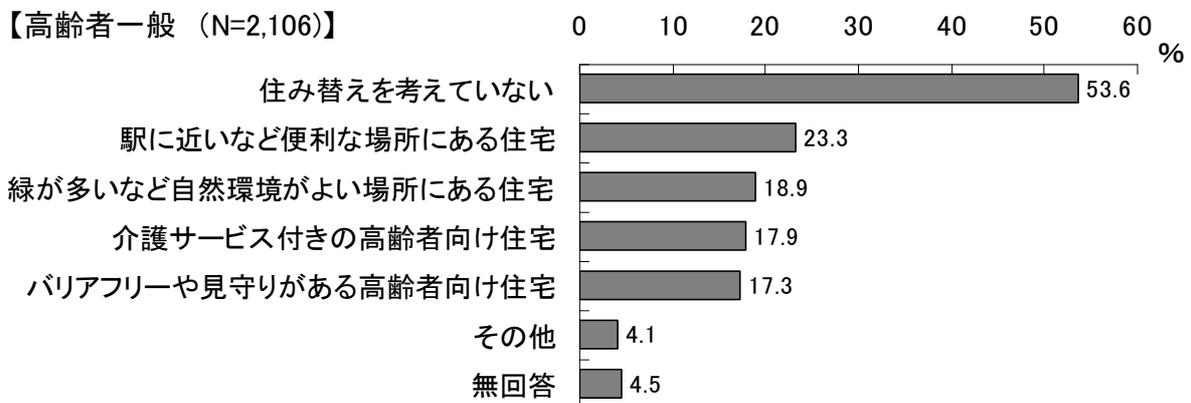
(5) 定住・住み替え意向

ア. これから高齢期一般の8割強が『住み続けたい』（「ずっと住み続けたい」、「当分は住み続けたい」の合計）と回答している。理由をみると「住み慣れているから」が7割弱と高い。

イ. また、高齢者一般で、住み替えをする場合の重視点について、「住み替えを考えていない」が5割強であり、これから高齢期一般の『ずっと住み続けたい(53.0%)』と同程度となっている。

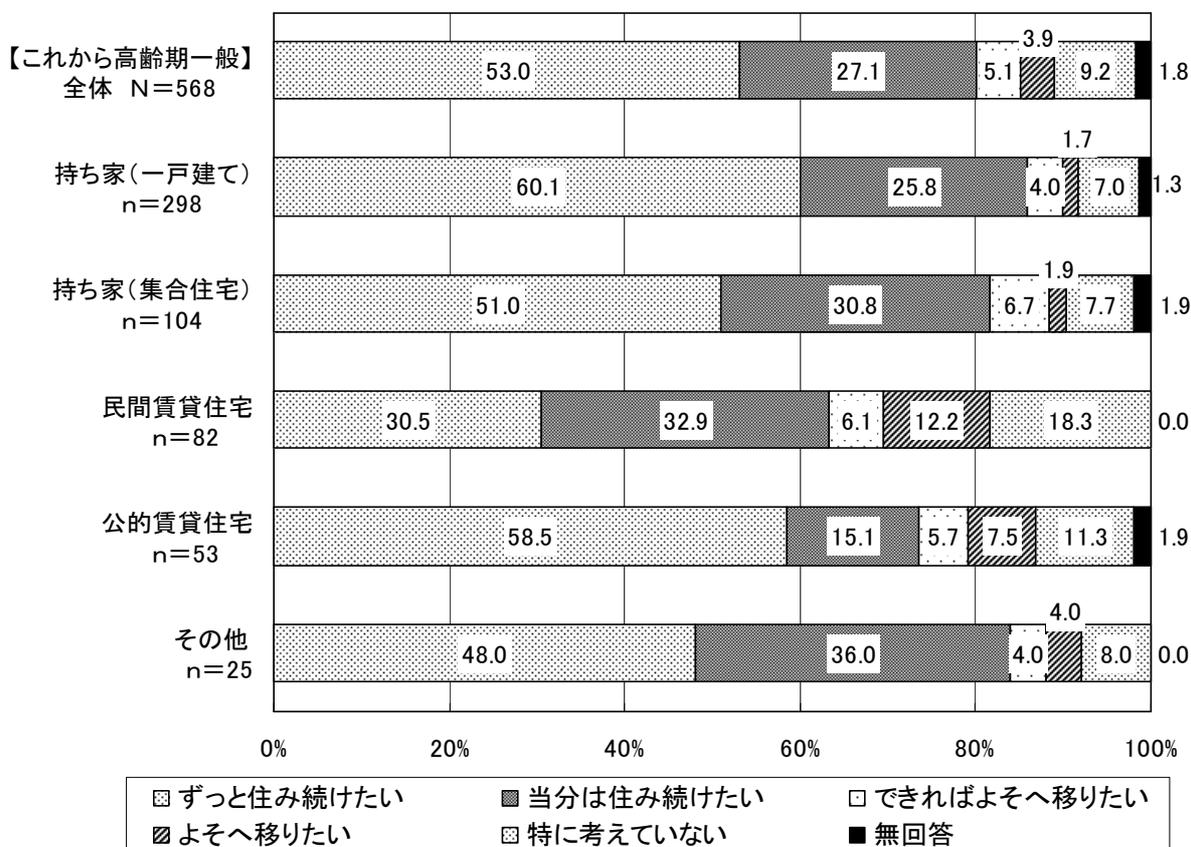


図表 10 定住・住み替え意向 住み続けたい理由 (複数回答)



図表 11 定住・住み替え意向 (住み替えの際の重視点) (複数回答)

ウ. 住まいの所有関係別にみると、『民間賃貸住宅』居住者で「ずっと住み続けたい」の割合が最も低くなっている。

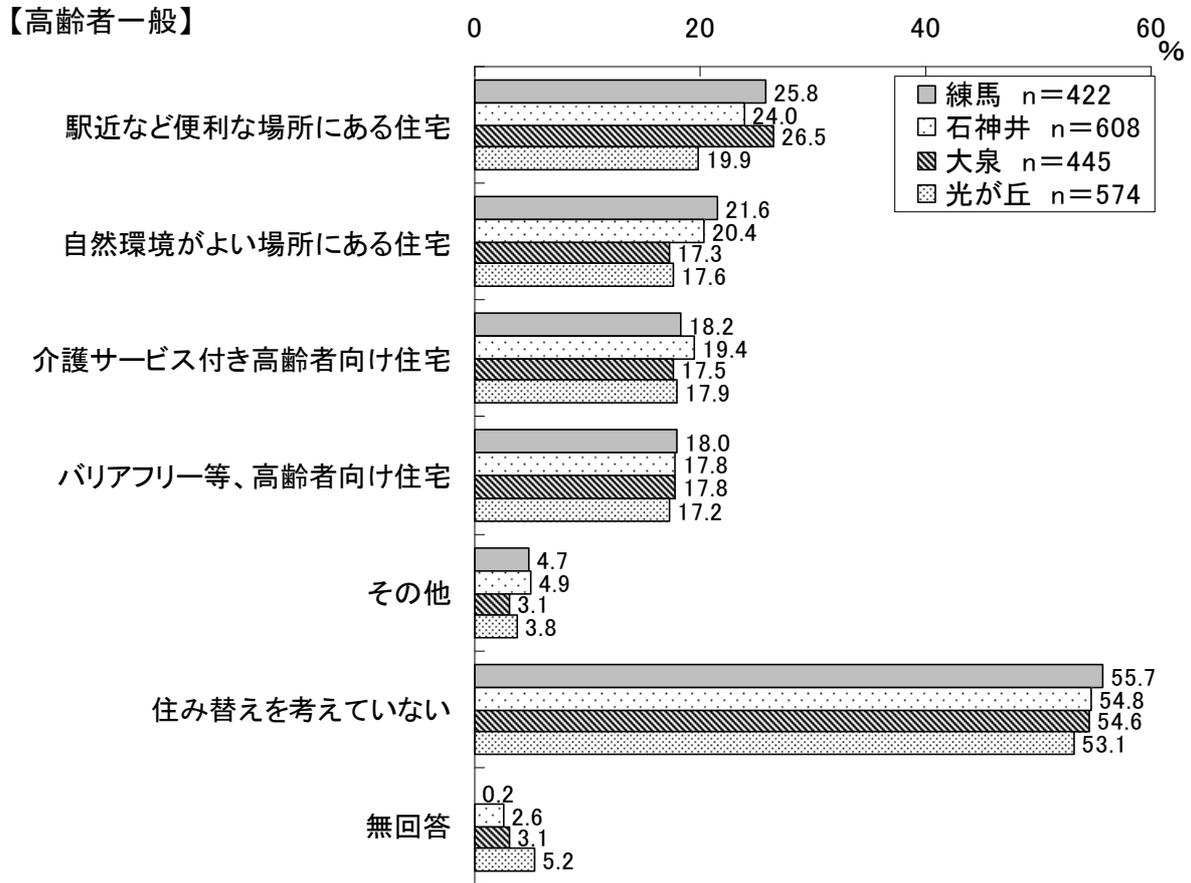


図表 12 住居形態×住まいの所有関係×定住・住み替え意向 (複数回答)

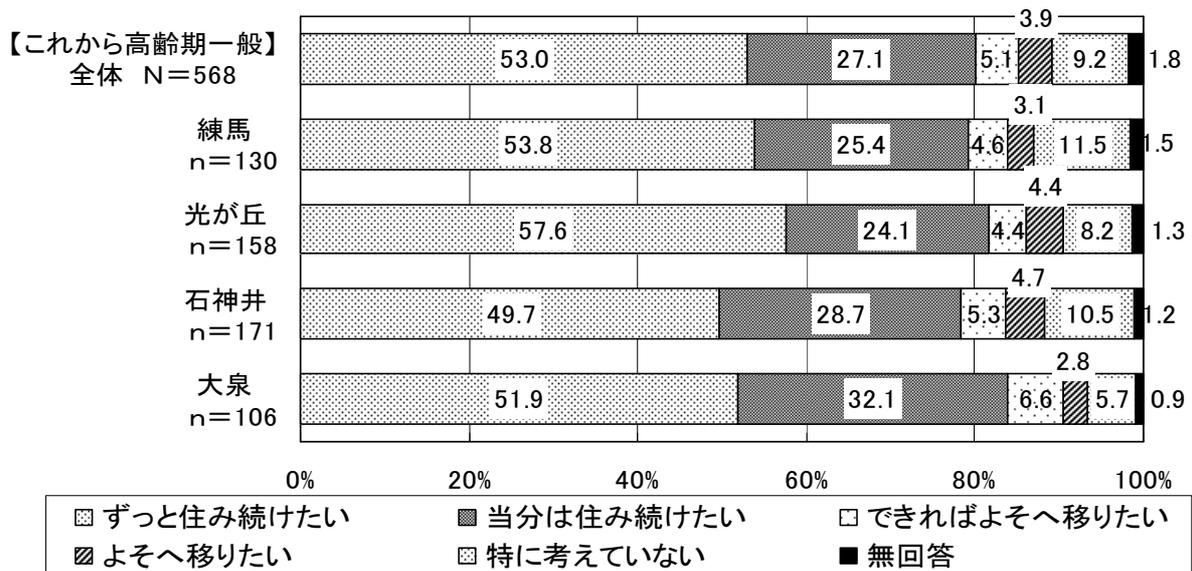
(6) 日常生活圏域別定住・住み替え意向

ア. 日常生活圏域別に定住・住み替え意向をみると、高齢者一般では、いずれの圏域においても傾向に違いがみられない。

イ. これから高齢期一般も同様に、住み替えについての意向は少ないことがうかがえる。



図表 13 日常生活圏域×住み替えの重視点／高齢者一般 (単数回答)



図表 14 日常生活圏域×定住・住み替え意向／これから高齢者 (単数回答)

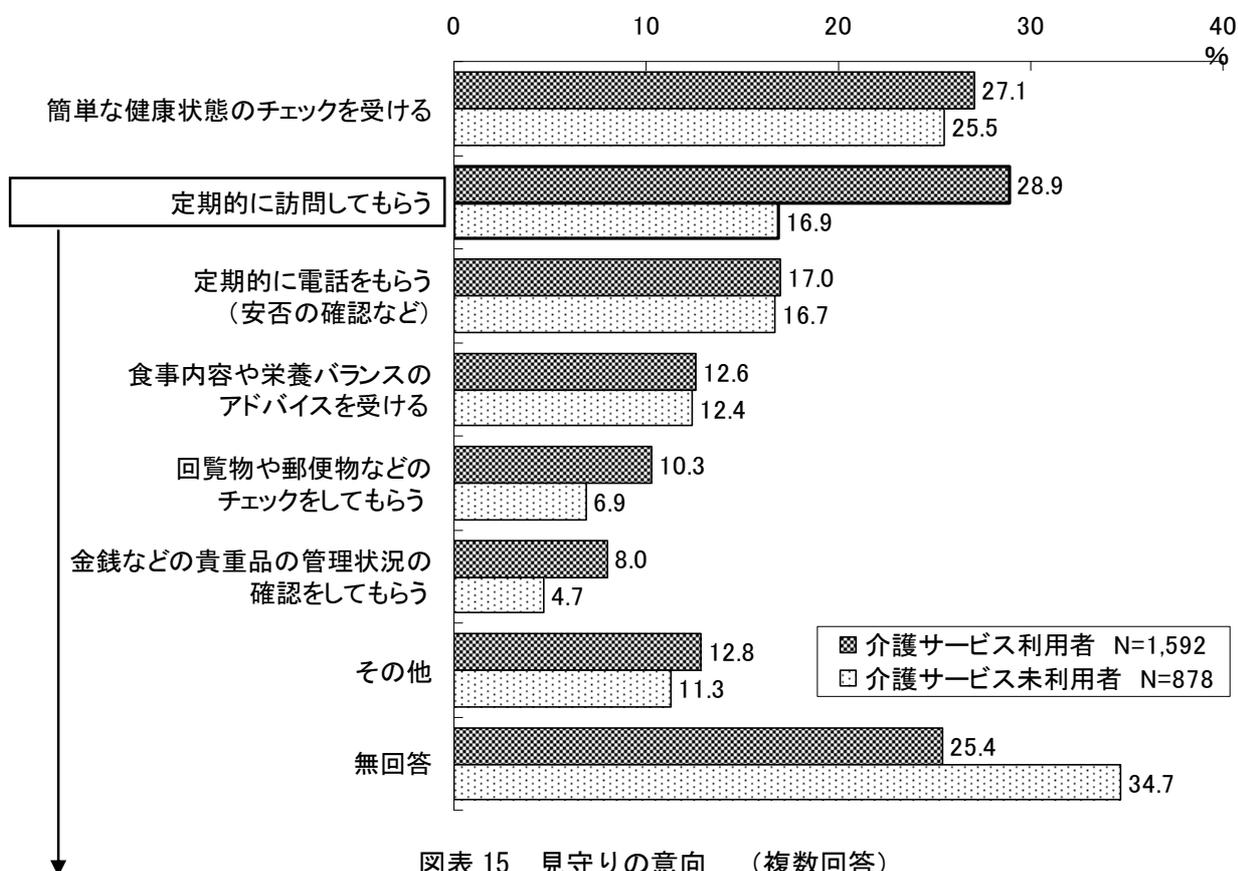
10. 高齢者の見守り

(1) 見守りに対する意向

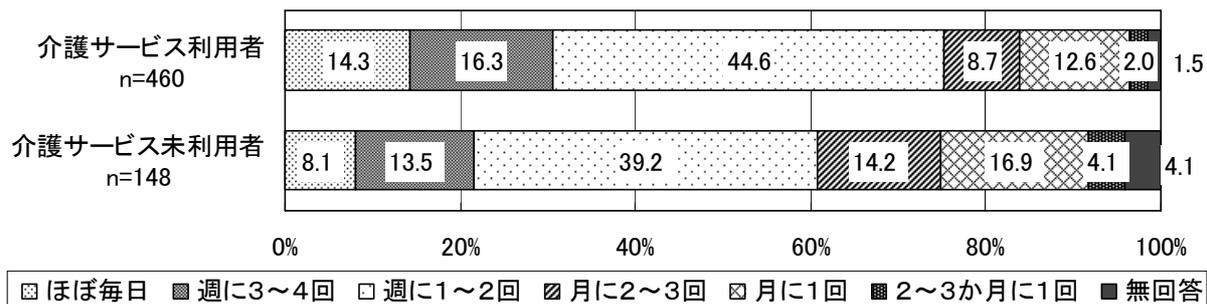
ア. 見守りに対する意向は、介護サービス未利用者よりも介護サービス利用者の方が高い割合となっている。

イ. 介護サービス利用者、介護サービス未利用者とも「簡単な健康状態のチェックを受ける」「定期的に訪問してもらう」「定期的に電話をもらう（安否の確認など）」の割合が高くなっている。

ウ. 「定期的に訪問してもらう」を希望する人が希望する頻度をみると、「週に1～2回」が最も多く、介護サービス利用者で44.6%、介護サービス未利用者で39.2%となっている。



【「定期的に訪問してもらう」訪問の頻度】

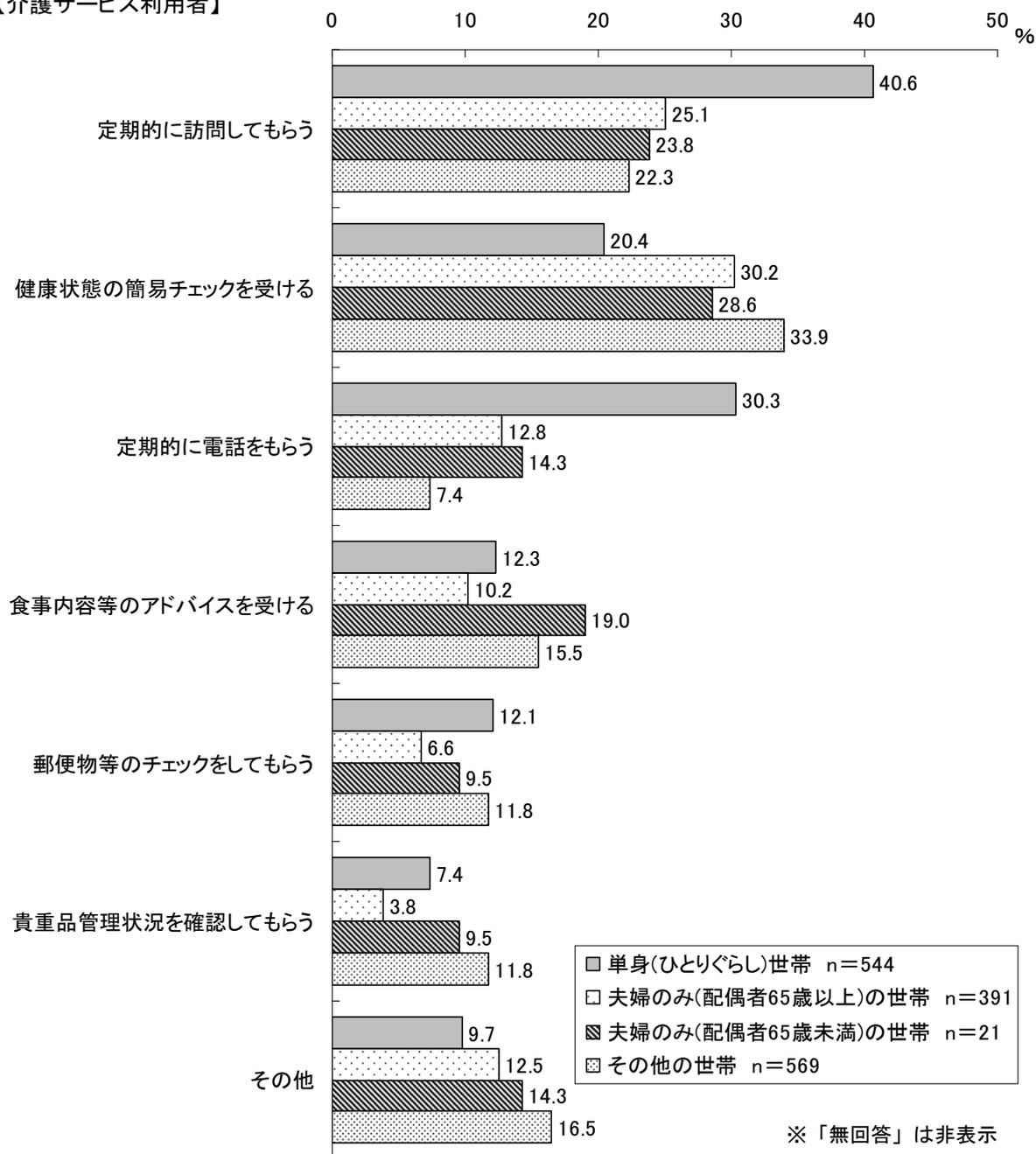


図表 16 定期訪問の頻度 (単数回答)

エ. 介護サービス利用者の見守りに対する意向を世帯類型別にみると、単身（ひとりぐらし）世帯で「定期的に訪問してもらう」「定期的に電話をもらう」の割合が高くなっている。

オ. 夫婦のみ（配偶者 65 歳以上）の世帯、その他の世帯では「健康状態の簡易チェックを受ける」の割合が高くなっている。

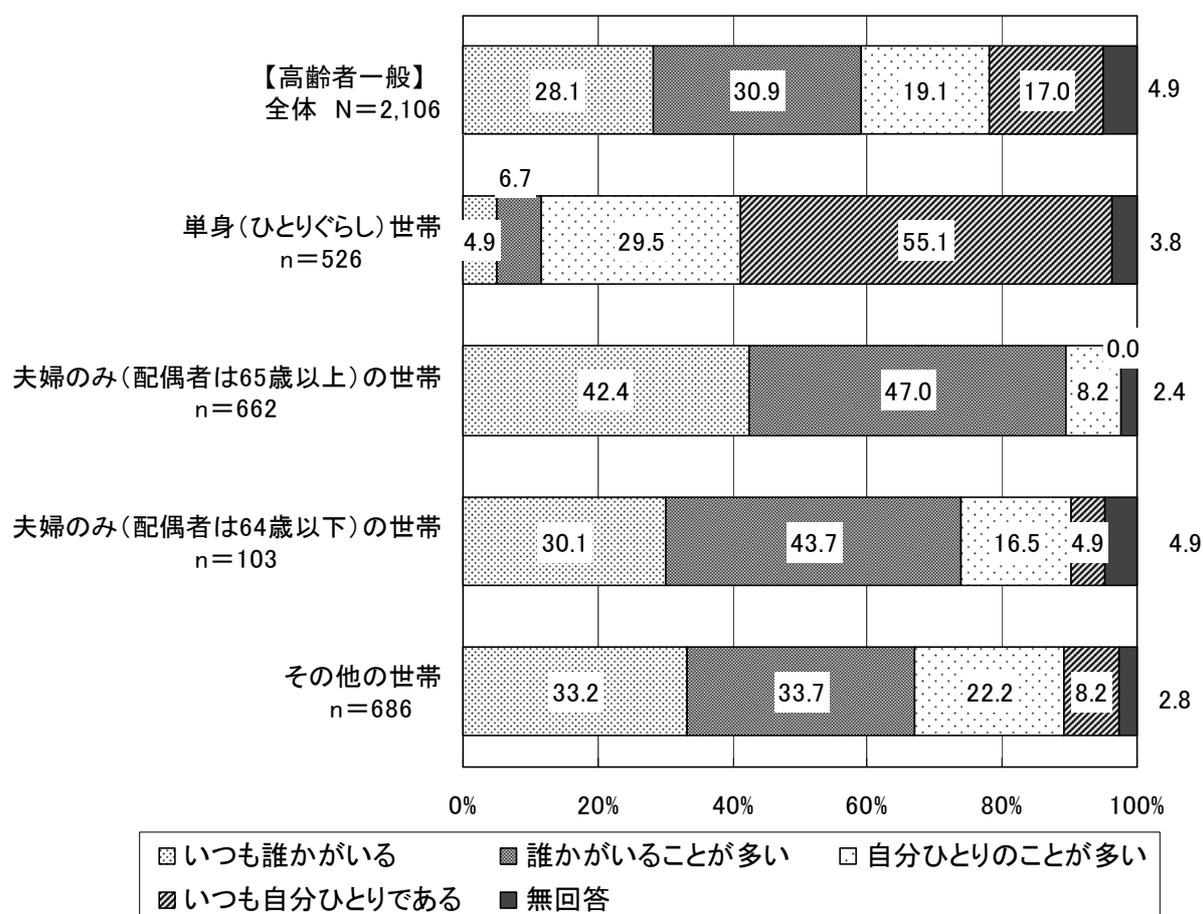
【介護サービス利用者】



図表 17 希望する見守り方法（複数回答）

(2) 平日昼間の在宅状況

ア. 平日昼間の、単身（ひとりぐらし）世帯以外の世帯における日中独居の状況をみると、『自分ひとりで過ごしている』（「自分ひとりのことが多い」、「いつも自分ひとりである」の合計）の割合は、「夫婦のみ（配偶者は65歳以上）」で1割弱、「夫婦のみ（配偶者は64歳以下）の世帯」で2割強、「その他の世帯」では3割強となっている。

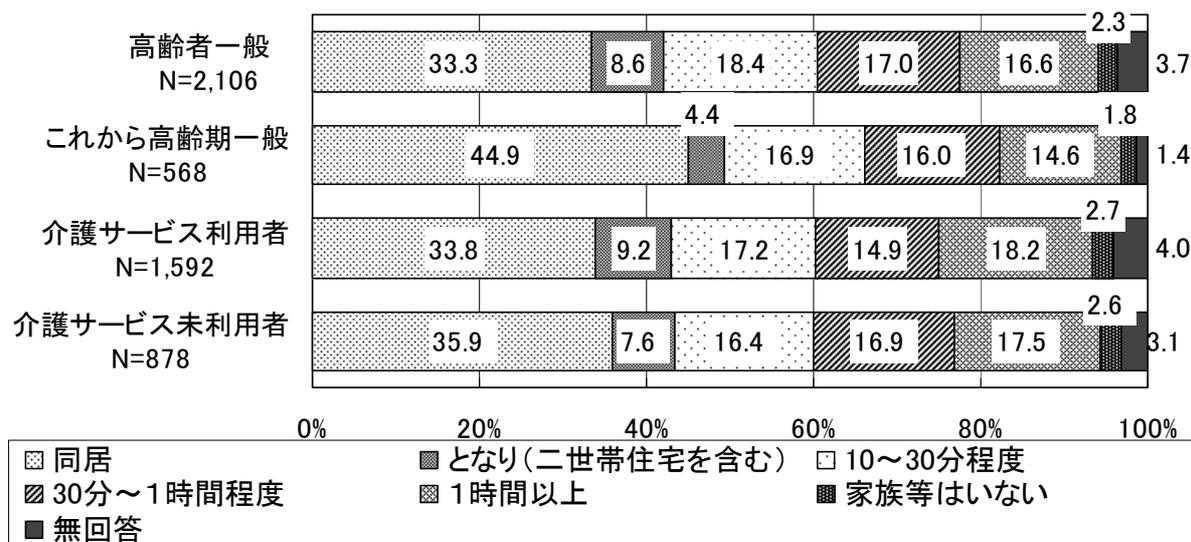


図表 18 平日昼間の在宅者（単数回答）

(3) 緊急時に連絡できる家族等との距離・会う頻度

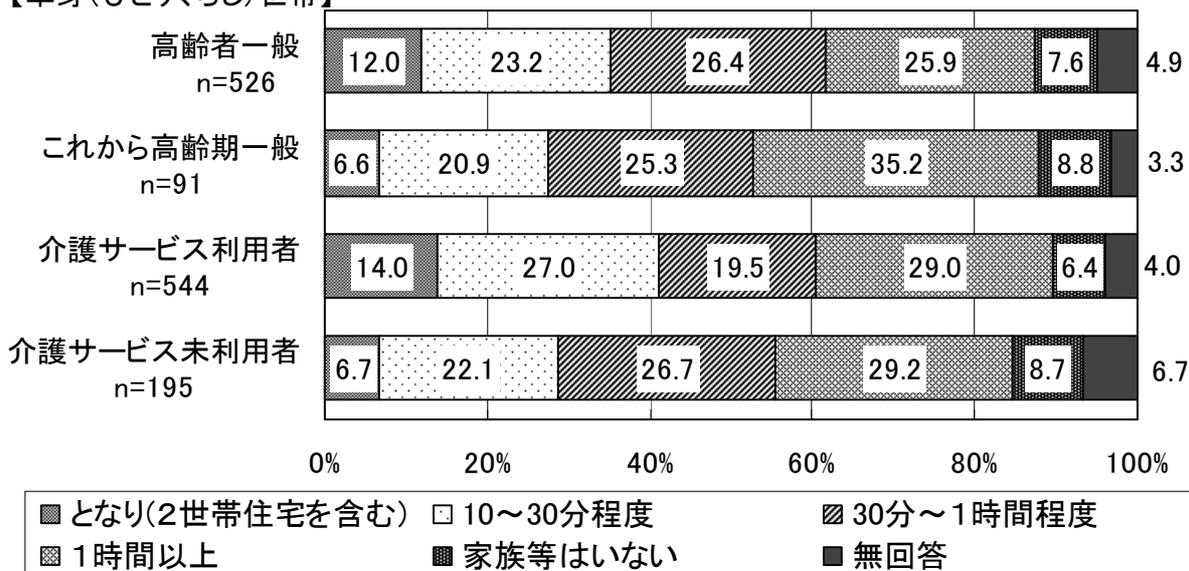
ア. 緊急時に連絡できる家族等との距離は、いずれの調査も『1時間以内』（「同居」、「となり」「10～30分程度」「30分～1時間程度」の合計）の割合が8割程度となっている。

イ. 単身（ひとりぐらし）世帯で『30分以内に住む家族等はいない』（「30分～1時間程度」、「1時間以上」、「家族等はいない」の合計）と回答する割合をみると、高齢者一般で約6割、これから高齢期一般で7割弱、介護サービス利用者で5割強、介護サービス未利用者では6割強となっている。



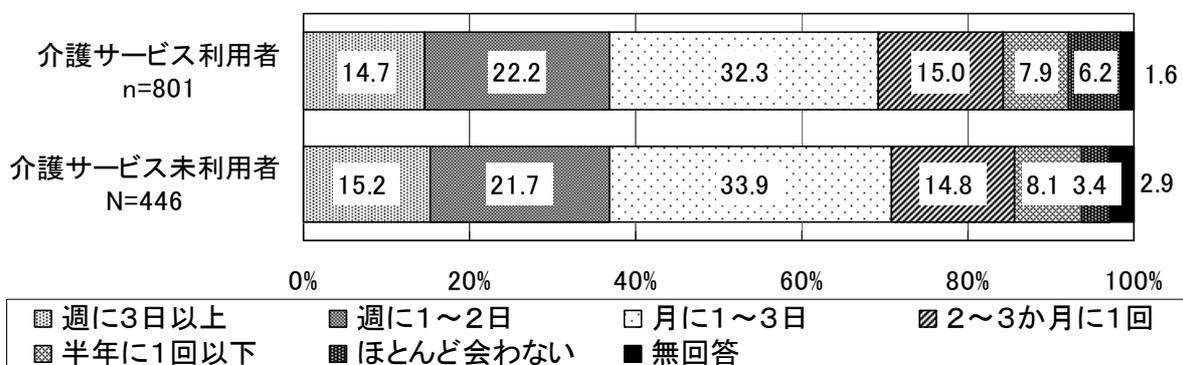
図表 19 緊急時に連絡できる家族との距離関係 (単数回答)

【単身(ひとりぐらし)世帯】



図表 20 緊急時に連絡できる家族との距離関係 (単数回答)

ウ. 介護サービス利用者、介護サービス未利用者について、緊急時に連絡できる家族等との距離が『10分以上』（「10～30分程度」、「30分～1時間程度」、「1時間以上」の合計）と回答した方が、家族等と会う頻度をみると、『月に1回以上』（「週に3日以上」「週に1～2日」「月に1～3日」の合計）が7割程度となっている。

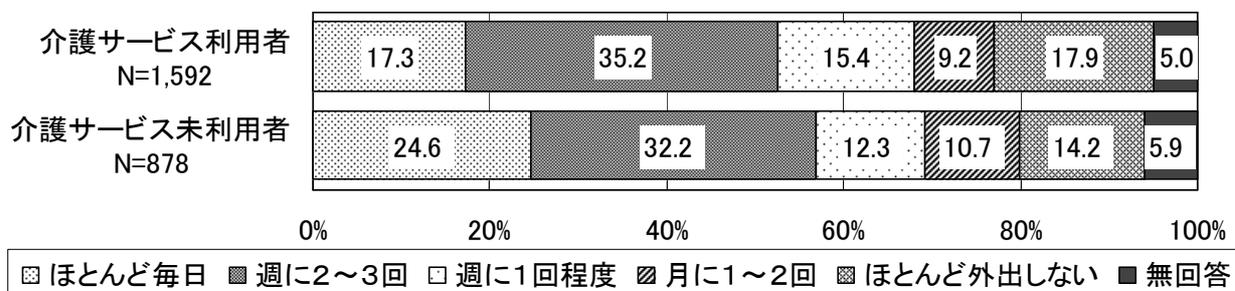


図表 21 家族等と会う頻度/10分以上についてのみ集計（単数回答）

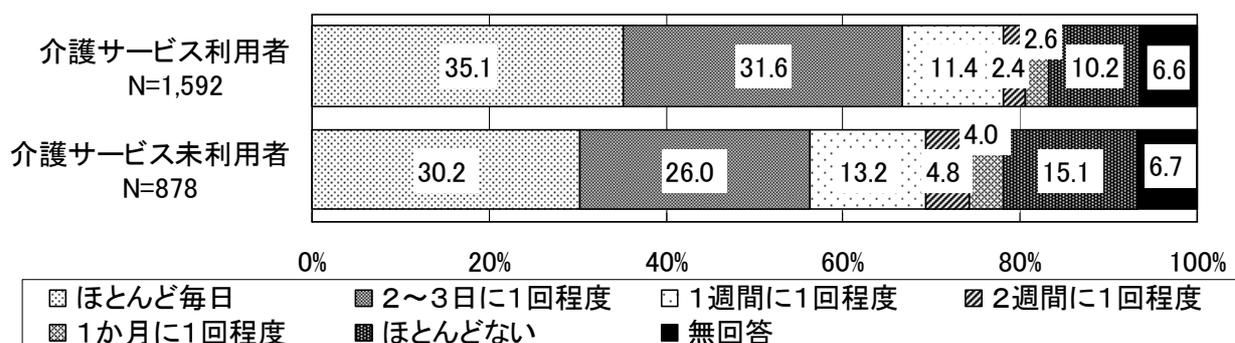
（4）外出・会話の頻度

ア. 外出頻度についてみると、介護サービス利用者、介護サービス未利用者とも、「ほとんど毎日」と「週に2～3回」の割合が高い。

イ. 会話の頻度は介護サービス利用者の方がやや頻度が高くなっている。



図表 22 買物、散歩、通院などを含め外出頻度（単数回答）



図表 23 会話の頻度（単数回答）